

Ⅱ コンソーシアムの形成



1 コンソーシアム連携協議会の設置

「共生社会の実現に向けたコンソーシアム連携協議会」を設置し、29名に委員を委嘱した。事務局は教育庁生涯学習課、特別支援教育課、教育研修センターが担うこととした。

【令和4年度委員名簿】

	所 属	職	氏 名	地区
1	県立清武せいりゅう支援学校	校長	松田 律子	中
2	南九州大学人間発達学部子ども教育学科	非常勤講師	川越 浩司	南
3	県立小林こすもす支援学校	主幹教諭	福崎 正浩	南
4	宮崎大学教育学部学校教育課程発達支援教育コース	准教授	若林 上総	中
5	南九州大学人間発達学部子ども教育学科	准教授	野村 宗嗣	南
6	九州保健福祉大学臨床心理学部臨床心理学科	講師	戸高 翼	北
7	宮崎総合学院 宮崎福祉医療カレッジ社会福祉士学科	専任教員	保田 浩美	中
8	都城市障害者自立支援協議会	会長	川口 貴博	南
9	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会	地域ボランティア課長	大山 晃代	中
10	日向市地域福祉コーディネーター連絡会	地域福祉コーディネーター	成合 進也	北
11	株式会社グローバル・クリーン	代表取締役社長	税田 和久	北
12	teとteの会(特別支援学校保護者代表)	会長	甲斐 麻央	北
13	一般社団法人宮崎県作業療法士会	作業療法士	内勢 美絵子	北
14	一般社団法人 宮崎県手をつなぐ育成会	理事	井上 あけみ	中
15	宮崎県肢体不自由児・者父母の会連合会	会長	田中 聡子	中
16	特定非営利活動法人 宮崎県精神福祉連合会	理事長	桑畑 貴志	南
17	宮崎LD・発達障がい親の会 フレンド	会長	猪股 重子	北
18	特定非営利活動法人 障害者自立支援センターYAH!DO みやざき	副理事長	山之内 俊夫	中
19	霧島おむすび自然学校	事務局長	壹岐 博彦	南
20	子どもと家族・関係者の集まり ポン太クラブ	会長	外山 明美	南
21	旭化成アビリティ延岡営業所 オフィスサービス課	課長	木村 進二	北
22	宮崎市教育委員会生涯学習課	主任主事	松岡 真一郎	中
23	新富町社会福祉協議会	係長	嶋末 剛	中
24	都城市教育委員会生涯学習課	副主幹	桑田 玲奈	南
25	小林市教育委員会社会教育課	主幹	高妻 司	南
26	延岡市教育委員会社会教育課	指導主事	飯野 小巻	北
27	延岡市健康福祉部障がい福祉課	主任主事	黒木 奈都子	北
28	日向市教育委員会生涯学習課	課長補佐	治田 健吾	北
29	県福祉保健部障がい福祉課	主幹	元長 貴司	中

今年度は、各地域の公民館講座等で民間団体と行政とが協働した取組が展開されるよう、市町村担当者、学校関係者、社会福祉協議会、NPO法人、当事者団体等の関係者を委員として依頼し、コンソーシアムを形成した。

2 コンソーシアム連携協議会の実施

【令和4年度開催実績】

回	期日	開催方法・内容
第1回	7月15日(金)	オンライン開催 (事業の趣旨などの共通理解)
第2回	8月26日(金)	オンライン開催 (事業の方向性、各地区の展開方策)
第3回	11月11日(金)	教育研修センター (コンファレンスの内容協議)
第4回	2月17日(金)	オンライン開催 (本年度のまとめと今後の展開方策)

3 各会の協議の記録

第1回コンソーシアム連携協議会 協議の記録

期日：令和4年7月15日（金） オンライン開催

◆ 中部地区 ◆

【出席者】

県立清武せいりゅう支援学校	松田 律子
学校法人宮崎総合学院 宮崎福祉医療カレッジ社会福祉士学科	保田 浩美
社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会	大山 晃代
一般社団法人 宮崎県手をつなぐ育成会	井上 あけみ
宮崎県肢体不自由児・者父母の会連合会	田中 聡子
特定非営利活動法人 障害者自立応援センターYAH! DO みやざき	山之内 俊夫
宮崎市教育委員会生涯学習課	松岡 真一郎
新富町社会福祉協議会	嶋末 剛
県福祉保健部障がい福祉課	元長 貴司

【協議の記録】

- これまでの取組
 - ・ 昨年度、初め、ヤッドみやざきと宮崎福祉医療カレッジとの学生との交流を始めたが、なかなか活発化しなかった。
 - ・ いろいろ考えるよりもまずは、やってみることが大切と考え、ボウリングと食事会を実施した。
- 今年度の取組について
 - ・ 今年度もこの方向性でやっていきたい。
 - ・ 今年度は、定期的に話し合う場を確保するために「自主サークル」を立ち上げる。
 - ・ そこで、何かやりたいことや何気ないことをみんなで定期的に集まり、みんなで話し合う。
 - ・ まずやってみて、できないことが起きたら、みんなで工夫してどうにかしようというのがいいのではないか。その考える過程が大事だと思う。
 - ・ まずはスポーツをみんなでしようということから始まり、そこに向けてどのようにしようか、自主サークルの中で話し合い考えていきたいと思うが、どうか。
 - ・ 例えば、バリアフリー運動会を実施する。それを企画する段階から障がいがある方も入って一緒になって考えていく。これがいいやり方だと考える。
 - ・ 初めから、イベントを立ち上げていくことはかなり難しい。他の団体が企画するイベントに参加することから始めてもよいのではないか。
- 自主サークルのメンバーについて
 - ・ まずは、YAH! DOみやざきのスタッフと福祉医療カレッジの学生からスタートすることになると思うが、その枠が広がっていくという考えでよいか。
 - ・ その考えで構わないが、初めから入ってもいいのではないかとも考える。例えば、宮崎大学の学生も入って広げてもいいと考える。
 - ・ その活動をSNSなどで発信してメンバーを広げてよいのではないか。
- サポートについて
 - ・ 公民館への自主グループの登録や、活動については学生やYAH! DOのスタッフには荷が重い部分があると思う。周りのものもサポートしていく必要がある。

◆ 南部地区 ◆

【出席者】

県立都城きりしま支援学校	川越 浩司
県立小林こすもす支援学校	福崎 正浩
南九州大学人間発達学部子ども教育学科	野村 宗嗣
都城市障害者自立支援協議会	川口 貴博
特定非営利活動法人 宮崎県精神福祉連合会	栗畑 貴志
霧島おむすび自然学校	壹岐 博彦
子どもと家族・関係者の集まり ポン太クラブ	外山 明美
都城市教育委員会生涯学習課	桑田 玲奈
小林市教育委員会社会教育課	高妻 司

【協議の記録】

- 今年度の取組について
 - ・ 霧島おむすび自然学校、ポン太クラブ等の民間団体と都城市の生涯学習課の行政とが協働して実施する公民館講座という形で進めていきたい。
 - ・ 現在のコロナ感染症の状況で、公民館が閉じてしまう可能性があるが、できることを実施していきたい。
 - ・ 例えば、山登りをテーマに何回かのシリーズものを計画する。山登りを最終目標とし、まずは簡単な場所から登り方や歩き方について学び、肢体不自由の方や視覚障がいの方について、どのような点に配慮すべきかの研修を行う。そのような学びが大切なのではと考える。
 - ・ このような取組だと、どのような障がいのある方でも、障がいの有無に関わらず参加することができる。このようなものが、公民館の講座として位置付けられたらいい。
 - ・ 史跡巡りという視点もよいが、防災という観点で自分が住む町で、どこをどのように避難したらよいか、どこにトイレがあり、どこに水道があるかという視点で歩き、いざ災害があったときも動くことができる。また、実際歩いてみて車いすで移動が難しいことや道路を舗装すべきといったことを、行政にお願いすることもできるのではないかと考える。
 - ・ 都城市には「ハロー元気講座」というものがあり、先程の登山の計画と「ガーデニング講座」を絡めて実施することも可能で、そのことにより、山登りの際に季節の花などに目が向くのではないかと考える。
 - ・ 基本的には、都城市の公民館講座で講座ができればよい。フットパスやガーデニング等、参加したい講座に障がいの有無に関わらず参加できるような体制づくりが大事で、シンプルだと思う。
- 昨年参加して
 - ・ 昨年、うちの施設のB型利用者から7名程度参加させてもらった、知らない人と歩くという点で緊張したのか、次の日に施設を休まれた方もいた。今後の参考になると思う。
- 学生のボランティアについて
 - ・ 学生がボランティアとして参加してもらうことは可能か。
 - ・ 活動のねらいや、その学生にどんな意味があるかがはっきりと示されていれば、可能であると考えている。
- 今後について
 - ・ 霧島おむすび自然学校やポン太クラブだけでなく、他の団体の方や学校、行政がどのように関わっていきけるかを考えていく必要がある。
 - ・ 団体の皆さんにはそれぞれの専門性を、行政の方には情報提供など、みんなで関わっていきることができる。
 - ・ 自立支援協議会としても、いろんな活動を施設に啓発することは、毎月会議があるので可能。また、さまざまな利用者の方に声をかけることも可能である。

◆ 北部地区 ◆

【出席者】

日向市地域福祉コーディネーター連絡会	成合 進也
株式会社グローバル・クリーン	税田 和久
te と te の会	甲斐 麻央
宮崎LD・発達障がい親の会 フレンド	猪股 重子
旭化成アビリティ延岡営業所 オフィスサービス課	木村 進二
延岡市教育委員会社会教育課	飯野 小巻
日向市教育委員会生涯学習課	治田 健吾

【協議の記録】

○ これまでの取組について

- ・ 昨年度から、こんなことできたらいいという内容を少し盛り込んだ実践のプランを動かそうとしている。
- ・ 日向市の県立ひまわり支援学校に行き、学校の実態とどのようなことができるかを日向市の生涯学習課と調整しながら実施していきたい。
- ・ キャリア教育の取組の一環として、賛同していただける企業等を集めて、本気の職業体験といった「人生寺子屋」を実施したことがある。これを10月か11月に実施したい。
- ・ この「人生寺子屋」を少しアレンジして、誰もがさまざまな職種を体験できるようなきっかけづくりを行いたい。現在20種類くらいを考えている。
- ・ この結果をもとに、日向市生涯学習課の方と実践を検証しながら、公民館プログラムを実施する方法を模索できたらよい。
- ・ そのためには、生涯学習、社会教育に関わる人たちが、現状を知る場をもつことが大切で、当事者の声や学びのニーズを理解した上で取組を考えていく必要がある。
- ・ 「人生寺子屋」や「福祉食堂」など、実際に地域の中で関係者と一緒にやるといったイメージで考えている。

○ これからについて

- ・ 委員の皆さんには、それぞれ得意な分野で参加していただき、プログラム化に向けて御意見をいただきたいと考えているが、後は実行するのみの段階に来ているのではないかと考えている。
- ・ これまで議論してきて、行政が中間支援をしないと実践がうまくいかない状況があった。そこで、今回は、私がコーディネーターとして、この中間支援を行いながら、実践につなげていきたい。
- ・ 3年目の今年度は、行政とさまざまな団体とがネットワークを結んで実践していきたい。特に、福祉を学んでいる学生にも関わって欲しい。
- ・ 初めてのことで分からないことも多い。まずはトライアンドエラーでやってみることから始めて行ったらいいのではないかと考えている。
- ・ 広報についても、特別支援学校にしていくことが必要ではないかと考えている。また、参加者のターゲットを特別支援学校に絞ることも意義深いと考える。
- ・ 特別支援学校を卒業すると、さまざまな情報が入りにくくなる。在学中に「生涯学習」という学びの場があるということを知る上では、特別支援学校で実施する意味は大きい。
- ・ さらに特別支援学校だけではなく、地域の小中学校の児童生徒を交えて実施することが共生社会の実現にさらに近づくのではないかと考えている。

第2回コンソーシアム連携協議会 協議の記録

期日：令和4年8月26日（金） オンライン開催

◆ 中部地区 ◆

【出席者】

県立清武せいりゅう支援学校	松田 律子
宮崎大学教育学部学校教育課程発達支援教育コース	若林 上総
学校法人宮崎総合学院 宮崎福祉医療カレッジ社会福祉士学科	保田 浩美
社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会 地域ボランティア課	大山 晃代
宮崎県肢体不自由児・者父母の会連合会	田中 聡子
特定非営利活動法人 障害者自立応援センターYAH! DO みやざき	山之内 俊夫
宮崎市教育委員会生涯学習課	松岡 真一郎
新富町社会福祉協議会	嶋末 剛
県福祉保健部障がい福祉課	元長 貴司

【協議の記録】

○ これまでの経過の説明

- ・ 企画をするにしても、車いすの方の場合、事故が起きる場合等考えるとハードルが高い。また、見知らぬ方との協働活動もハードルが高い。
- ・ 希望をもとに企画をするが、土壇場でキャンセルがあることもある。人を集めることが難しいと感じている。みんなの想い（障がいに対応する）を一つの企画にもっていくことが難しい。
- ・ 参加者を見つけることは難しい。イベント性が強くなると持続しづらいので、兼ね合いを調整することが必要。
- ・ 持続するためには、単発開催より、月や曜日等ルーティンになっていると参加しやすい。
- ・ 参加者側を考えると、一つのメニューでは対応できないものもあると思うので、ルーティン化して幅広いメニューがあることで対応できると考える。
- ・ 会に参加すること自体から、発信することや様々な役割を担うことも必要と感じた。
- ・ テーマも学生に任せる形になっているが、自由になると決めづらいのではないかと感じる。何をテーマにおき、どれかの会に参加できるようになるとよいと思った。
- ・ いつもの場所で定期的に集まる場所をつくるため、中央公民館の自主サークル（やどかり）を立ち上げた。準備の参加や遊びに行く感覚で行ける場所になればよいと考える。
- ・ 一からイベントを起こすのは難しいため、既存のイベントから参加するのもよいのでは。具体的には、10月9日(日)宮崎市ボランティアセンター主催のイベントに企画者として参加する。
- ・ 秋に自分が所属する団体のメンバーでデイキャンプを企画予定なので、ぜひ、やどかりのメンバーにも参入してもらいたい。
- ・ 計画段階からつながることは、活動の幅が広がると思う。今後の展開で情報の集積されていき、話が広がる流れができるとよいと思う。
- ・ 自主サークルの予算が懸案されるが、持続するための運営の仕方は？
- ・ イベントごとに係る経費がある。参加者からの参加費を徴収する形になると思う。場所代は免除される。
- ・ 公的な機関は、コロナ禍で即閉館になった。お金のことを考えると、協賛企業等があったり、大きめの福祉事業所で大きなバスを所有しているところと協賛できたりするとよい。
- ・ 月2回は減免使用できる。ぜひ活用してほしい。公共施設は、県からの要請がない限り閉館の予定はしていない。いざとなったときのバックボーンはあったほうが良いと思う。持続可能という点で、メンバーも重要と思う。同じ人だと発展性もないと思うので、募集をアピールが必要となる。そこで、他の公民館講座の方がやどかりに参入してもらおう形もあると思う。12月から次年度の講座計画が始まる。既存講座へのやどかりからのアドバイスなどもあると思った。
- ・ メンバー募集という観点から、活動の選択肢として与えることは可能である。

◆ 南部地区 ◆

【出席者】

県立都城きりしま支援学校	川越 浩司
県立小林こすもす支援学校	福崎 正浩
南九州大学人間発達学部子ども教育学科	野村 宗嗣
都城市障害者自立支援協議会	川口 貴博
特定非営利活動法人 宮崎県精神福祉連合会	柴畑 貴志
子どもと家族・関係者の集まり ポン太クラブ	外山 明美
都城市教育委員会生涯学習課	桑田 玲奈

【協議の記録】

○ 取組内容について

1. 8月15日の事前協議内容

- ・ 都城市の公民館講座「ハロー元気講座」とコラボした取組をしたらどうか。
 - 「どんぐり1000年の森づくり」の取組とコラボする。
 - フットパス、防災活動、工作などを盛り込んだ活動にしてはどうか。
- ・ 映画鑑賞の取組はどうか。
- ・ 外山委員の「フットパスで共生社会を実現する」福祉教育カリキュラムを実現してはどうか。
 - 南部地区の取組としては、外山委員のカリキュラムに取り組むことにした。

2. 「誰もが気楽に楽しめるフットパスで共生社会を実現する」福祉教育カリキュラム

- ・ 事前学習を含めて、全7回のカリキュラムだが、これから取り組むことを考えると、全て実施することは難しい。
- ・ 事前学習を含め、3回くらいの取組にしてはどうか。1回目は「どんぐり1000年の森づくり」とコラボして取り組む。2回目は志和池地区と協力して取り組むのはどうか。
- ・ 事前学習では、実施に向けての準備について入念に話し合う必要がある。特に、安全面が大事である。可能であれば、障がい者当事者にも参加してもらえるとよい。
 - 施設や視覚障害者センターなどに声をかけることは可能である。
- ・ 実施に当たっては、さまざまな方の協力が必要である。
 - 民生委員への呼びかけ（川口委員）
 - 南九州大学生への呼びかけ（野村委員）
 - 都城西高校、都城高専への呼びかけ（外山委員）
 - 特別支援学校への呼びかけ（川越委員、福崎委員）
 - 社会福祉協議会（都城）のボランティアセンターへの呼びかけ（外山委員）
 - 公民館利用（桑田委員）
- ・ 事前学習会実施に向けて
 - コロナの状況を注視しながら、外山委員から、場所、日時などの連絡をする。

○ 県民コンファレンスについて

- ・ 「フットパスで共生社会を実現する」の取組を発表する。
- ・ 発表者などは未定

◆ 北部地区 ◆

【出席者】

九州保健福祉大学臨床心理学部臨床心理学科	戸高 翼
日向市地域福祉コーディネーター連絡会	成合 進也
te と te の会	甲斐 麻央
一般社団法人宮崎県作業療法士会	内勢 美絵子
宮崎LD・発達障がい親の会 フレンド	猪股 重子
旭化成アビリティ延岡営業所 オフィスサービス課	木村 進二
延岡市教育委員会社会教育課	飯野 小巻
延岡市健康福祉部障がい福祉課	黒木 奈都子
日向市教育委員会生涯学習課	治田 健吾

【協議の記録】

○ 各委員の取組について

- 延岡市と九保大が協働する取組で子育ての講話を担当している。さまざまな場面で障がいのある子と障がいのない子が、交流する場面が見られた。残念なのが、支援学校へ案内が届いていなかった。
- 七夕や防災食クッキングの講座を支援学校へ案内したが、応募が無かった。ニーズの把握もあるが、講座は今後も続け、案内も続けていく予定。
- 障がいのある子を対象とした取組ではないが、夏休みに「寺子屋」という事業で、障がいのある子と障がいのない子が一緒に部屋でそれぞれの課題に取り組んでいた。30名程度。小中学生に高校生が教えていた。お金の模型を使って、金銭の計算を教えていた。学習内容から推測して、障がいのある子に高校生が教えていたと思われる。
- 延岡市の取組は、小中学生に高校生が教えることがよい。日向市では、子ども食堂において学習支援を行っているところがある。そこは、九州電力のキッチンを借りて、料理体験もやっていた。その団体は、子ども食堂もやっていて、その関係で障がいのある子どもの参加があったと思われる。

○ 第1回連携協議会から、今回の連絡協議会までの間の動きについて。

- 8/4(木)日向ひまわり支援学校を、コーディネーターの加藤と一緒に訪問した。
- 学校自体は、地域社会とのつながりを求めていることが分かった。学校が把握している生涯学習へのニーズとして、①趣味や学びたいことを学ぶ。②今困っていることを克服するための学び。困り感に周りが気づいていても、当事者が気づかないことがある。支援者の存在は必要。
- 「なかぼつ」の存在が重要だと分かった。「就労・生活支援センター」の略称。また、自立支援協議会のことも、これから情報収集していきたい。
- 学校からのヒントで、ハローワークとの連携が十分図られていることが分かった。
- 学校とは違う取組。働くためにはどのような技術が必要かなど学ばせていきたい。
- 福祉食堂。出会うこと、知り合うことを大切にする。そのような取組への参加は、高等部の生徒にとっては有効だと返答いただいた。

○ 日向市の公民館講座について

- 障がいのある方々に、一般講座に参加してもらうことを実際に行っていきたい。
- 年1回の申込。6月が締切。定員に空きのある講座もある。
- 当事者に成合が付き添う形で参加することを考えている。
- 障がいの種類や程度、特性に応じた支援・サポートが必要。誰でも参加可能と簡単に言えない。
- 幅広く応募しているが、申込みが無い。問い合わせもない場合が多い。応募があったら、その時点で相談することになる。
- 参加申し込みの工夫は必要。記入欄を大きくするなど。
- 申込みの段階でのニーズの把握について、現在公民館へアンケートを実施している。
- 何か取組をする際は、申し込みの時点で、障がいの有無や特性など把握できるようにしており、申込用紙を工夫している。二次障がいの無い方は、対応がしやすい。
- 障がいのある方への対応などは、一度にたくさんは進められない。できるところから、少しずつやっていくべき。
- 11月に向けて、それぞれ連絡していく。都合がよければ、話し合いの場を持ちたい。

第3回コンソーシアム連携協議会 協議の記録

期日：令和4年11月11日（金） 教育研修センター

◆ 中部地区 ◆

【出席者】

県立清武せいりゅう支援学校	松田 律子
宮崎大学教育学部学校教育課程発達支援教育コース	若林 上総
学校法人宮崎総合学院 宮崎福祉医療カレッジ社会福祉士学科	保田 浩美
社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会 地域ボランティア課	大山 晃代
一般社団法人 宮崎県手をつなぐ育成会	井上 あけみ
宮崎県肢体不自由児・者父母の会連合会	田中 聡子
特定非営利活動法人 障害者自立応援センターYAH! DO みやざき	山之内 俊夫
宮崎市教育委員会生涯学習課	松岡 真一郎
県福祉保健部障がい福祉課	元長 貴司

【協議の記録】

1 地区の取組の進捗状況

- R3 の取組：委員の思いが強く、当事者同士の戸惑いがあった。また、自分達が招待される側ではなく、招待する側になりたい思いがあった。そんな中、何かを一緒にするには、仲間になろうということで、ボウリングに行くことで絆を深めた。
- R4 の取組：「まずはやってみよう」をコンセプトに何かをしながら仲間づくりを行うこととし、その何かについては、スポーツによることとした。
- ① ニュースポーツ体験会の取組
参加者に合わせたルールの変更、Google フォームによる感想と反省、仮装をして楽しんだ。
- ② 自主サークル（やどかり）の立ち上げ
LINE で繋がり、企画提案。企画以外の場面でのやり取りもあった。（台風時など）
- ③ コラボレーション
 - ・ ボランティア協会が主催するパラスポーツ体験・交流とコラボ(当日 70～80 名ほどの参加)
 - ・ ボランティア協会とつながれたことが良かった。また、当日だけでなく、練習段階から関わることもできたことも良かった。
 - ・ メリット：参加者集めや場所取りなどの労力が省ける。対象者が明確で準備がはかどる。
 - ・ 終了後に打ち上げを実施し、友好を深めた。

2 コンファレンスについて

- 中部地区としては、全ての団体が発表する案で進めたい。（A 案）
- 発表者は自主サークルの方から選出する。発表資料等は、委員で作成する。

3 公民館等で講座を実施する持続可能な方策について

- 新たな事業を起こして公民館講座に申し込んでいる。（田中委員）
- 宮崎市として、公民館講座の 2 枠を空けている。
- 既にある公民館講座に「やどかり」が関わっていけるようにできると良い。

※ 課題としては、

- ① 継続
頑張りすぎず。キーマンとなる人との関わりを大切に。時代にあった運営方法を模索していく。
- ② 会員の確保
SNS の活用。事務局や連絡先などある程度の明確さが必要。

- インタビュー・ダイアログの登壇者について

◆ 南部地区 ◆

【出席者】

県立都城きりしま支援学校	川越 浩司
県立小林こすもす支援学校	福崎 正浩
南九州大学人間発達学部子ども教育学科	野村 宗嗣
都城市障害者自立支援協議会	川口 貴博
特定非営利活動法人 宮崎県精神福祉連合会	栞畑 貴志
霧島おむすび自然学校	壹岐 博彦
子どもと家族・関係者の集まり ポン太クラブ	外山 明美
都城市教育委員会生涯学習課	桑田 玲奈
小林市教育委員会社会教育課	高妻 司

【協議の記録】

○ 取組の進捗状況について

- ・ 10月 事前学習会（ボランティア講習会）
- ・ 11月5日（土） 「秋のあじわい体験 ～どんぐり村で自然あそび！～」
障がい者18名、保護者2名、事業所職員4名、どんぐり村管理者2名
ボランティア17名、幼児1名 総勢44名の参加

※ 課題・・・ボランティアの確保が難しかった。

- 志和池地区の川口氏を通じたことで確保できた。
- 顔見知りの関係でないとボランティアを呼びかけるのは難しい。
- 高齢者への連絡手段（メール×、携帯×）

- ・ 11月12日（土） 「深まる秋の志和池を楽しむ“フットパス体験”」 予定
現在のところ19名参加予定（ボランティア29名参加予定）
→ スタッフを含め、総勢53名参加予定

○ コンファレンスの発表について

- ・ 上記の「秋のあじわい体験 ～どんぐり村で自然あそび！～」 「深まる秋の志和地を楽しむ“フットパス体験”」の様子を発表する。
- ・ 発表者：川越浩司先生（南部地区代表）・・・質疑・応答へのフォロー体制については検討
→ 志和地地区公民館及び小林市中央公民館にサテライト会場を設置予定

○ 公民館等における持続可能な方策について

- ・ 課題・・・* 関係機関との連携を円滑にするためには、早期の計画が必要
* 市の事業として開催すると、コロナの状況によっては中止せざるを得ない。
地域のボランティアを依頼する際の窓口が地域によって違う。

※ 小林市では、今年度試行的に公民館講座の中の健幸散策講座（フットパスウォーク）に障がいのある方の参加を呼びかける。事業所等への案内チラシの送付を障害福祉課が行う。また社会福祉協議会にはボランティア要請の協力をお願いする。（講座開催日：11月24日）。

【出席者】

日向市地域福祉コーディネーター連絡会
株式会社グローバル・クリーン
teとteの会
一般社団法人宮崎県作業療法士会
宮崎LD・発達障がい親の会 フレンド
延岡市教育委員会社会教育課
延岡市健康福祉部障がい福祉課

成合 進也
税田 和久
甲斐 麻央
内勢 美絵子
猪股 重子
飯野 小巻
黒木 奈都子

【協議の記録】

○ 取組の進捗状況について

- クラウドファンディングで絵本を作成。この絵本は、10歳ぐらいまでに「多様性」について学んでほしいという思いで企画した。県内の小学校、支援学校に配り、知事、教育長へ渡した。
- 今年10月に、ビルメンテナンス作業の授業を、延岡しろやま支援学校高等部で行った。民間企業で障がい者雇用を行っている、大人の世代で偏見を修正する難しさなどを感じた。
- 23年前に、会社で障がい者雇用を始めた頃、障がい者差別解消法ができる前は、遠回しに障がい者の清掃を断る商業施設、病院、介護施設などがあった。
- 子どもの頃に、意図的に、地域の中で障がい者を理解する活動は必要。大人からも参加でき、取り組めるものが必要。
- teとteの会では、子どもと親の困り感に焦点を当ててきた。特に、重度の障がいのある方、重い障がいのある方に手をかける必要があると感じている。8月にNPO法人の申請を行った。こども食堂などにも参加した。発達障がいのある子ども、大人のトイレの問題、医療的ケアのある子どもを受け入れる施設の少なさ、障がい児認定前の子どもや親の支援等の課題に取り組みたい。
- 日向ひまわり支援学校を日向市教委の担当者と一緒に訪問し、進路担当の先生方と協議してヒントを得た。ふくし食堂を開催し、当事者など関係者との関係性作りを行いたい。
- 障がい者の防災について考えることをテーマとして取り組む。災害時の行動について、その場で体験して学ぶ取組を考えている。コーヒーなどを飲みながら、地域の一般市民にも参加してもらい、地域の人間から障がいのある方へ、その学びに近づく機会としたい。
- 日向市で行っている「人ものづくりフェア」で18講座行われているが、障がい者の参加もOKという返事をいただいている。次回の計画について話し合う際に、障がい者の参加について一緒に考えることになっている。地域福祉コーディネーターが事務局となって、ひまわり支援学校の児童生徒、小中学校の支援学級の児童生徒などに参加を呼びかける。
- 障がいのある方たちと世間には、日常的な壁を感じる。消防団の団員も連れていきたい。地域には障がいのある方は必ずいる。消防団は「社会を支える」ということがテーマ。
- 食べることはみんなが好きで取り組みやすい。障がいの特性に応じて、クールダウンできるスペースなどは必要。また、何かあった時のために、サポートできる体制も必要。
- 学生ボランティアも募る予定。
- 学生がボランティアに来るなら、事前のレクチャーなどフォローが必要。専門家の存在が必要。
- 参加したボランティアに、早めに来てもらい、ミーティングが必要だと考える。
- 小学部低学年には多動の児童もいる。対応するボランティアは、それぞれ2名体制が必要。
- 「卒業してから」の繋がりではなく、「外とのつながり」を在学時から想定して実践していくことが大切だと考える。その一つとして、公民館講座を在学時から体験することもよいと思う。場所はサンパークを考えている。

○ コンファレンスの発表について

- 発表は「ふくし食堂」の取組を発表する。
- 関係者数名で打ち合わせを行ってみてはどうか。
- 声をかけてもらえれば参加したい。イベントは、これまで障がいのある方々に関わったことのない人たちに参加して欲しい。間口を広げるには、ある程度はやりとりを仕込む必要もあると思う。取り組みやすいものがよい。
- 困り感を共有し、関係性作りができればよい。発表内容については今後知らせる。

第4回コンソーシアム連携協議会 協議の記録

期日：令和5年2月17日（金） オンライン開催

◆ 中部地区 ◆

【出席者】

県立清武せいりゅう支援学校	松田 律子
宮崎大学教育学部学校教育課程発達支援教育コース	若林 上総
学校法人宮崎総合学院 宮崎福祉医療カレッジ社会福祉士学科	保田 浩美
社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会 地域ボランティア課	大山 晃代
一般社団法人 宮崎県手をつなぐ育成会	井上 あけみ
宮崎県肢体不自由児・者父母の会連合会	田中 聡子
宮崎市教育委員会生涯学習課	松岡 真一郎

【協議の記録】

- 1 「ひなたのつどい」、これまでの取組について
 - 宮崎福祉医療カレッジとYAHIDOみやぎきの取組がよかった。1年目は戸惑いもあったが、2年目は、一緒にレクレーションに取り組むことが決まり、方向性がはっきりした。取り組むことが明確になるとよい。障がいがあるなしにかかわらず、同じ空間で活動することが大切である。
 - 「やどかり」の取組は素晴らしい。当事者の意見が反映された取組だった。学校以外で、このような場が重要である。参加者を確保していくことが課題。
 - ひなたのつどいでは、チャットへの回答をするとよかった。その場で回答できないときは、後ほど回答する旨のアナウンスがあるとよかった。
 - 共生特番「つながる」は、内容がまとまっていてわかりやすかった。プロの表現、発信力は違うと感じた。
 - 来年度は、助成金を活用して、やどかりのメンバーで卓球バレーに取り組む予定である。
 - 障がいのある方と地域の中学生在が、ニュースポーツを通して関わる取組について計画中有る。
- 2 市町村の公民館等で、誰もが参加できる講座の実施に向けて
 - まずは、アンケートを実施し、ニーズを把握することが大切である。
 - 既存の講座を生かして、まずは体験講座を実施してはどうか。
 - 子どもの頃から障がいのある方と一緒に体験することが大切である。学校のカリキュラムだけでなく、地域と学校が考えていく必要がある。
 - 学校は交流が重要である。様々な機会があるとよい。地域に特別支援学校の子どもたちも参加できる内容があるとよい。地域の子ども、障がいのある子どもも参加できる講座等があるとよい。
 - 昨年度、障がいのある方対象の取組として、「フィットネス」「ニュースポーツ」「音楽活動」に取り組んだ。音楽活動では、放課後デイサービスに声かけたところ、10人の特別支援学校の子どもが参加した。事業所の方が、「土曜日に何をしようかと悩んでいるところもあるので、こういう活動があると助かる」旨の話をしていた。
 - 「つながり」の工夫が大切である。多様性があるとよい。学校と地域のサッカーチームとつながった取組は好事例である。子どもの頃から外からのかかわりがあり、互いにつながることはよいことである。
 - 兵庫県の多機能型カレッジを視察した。「学ぶことを学ぶ」をコンセプトに、障がいのある方が主体的に学び、就労や大学での学びにつながる仕組みが整っていた。宮崎県もアンケートを実施してニーズを捉え、宮崎らしい複層的な学ぶ仕組みが整備されるとよい。
 - 宮崎市の公民館で誰でも（特に障がい者）参加できる講座を実施する際に、壁となるが、ハード面と人的課題である。特に人的課題については、障がいのある方が参加する際、運営上の工夫や講師への理解協力などが必要で、既存の講座全てがそれを事前に対応するのは困難であり、事前に問合せがあった場合の個別対応しかできていない。特定の講座を障がい者に参加してもらいたい講座として企画する場合は、事前準備や各種課題が想定しやすい。
 - 講座等の広報について、自治会にパンフレットを配布したり、ホームページやSNSで周知したりしているが、障がいのある方個人に個別に発信することは困難である。障がいのある方も「生涯学習をしたい、学びたい」意欲がある場合には、自分から各種情報に手を伸ば

してもらい必要があるのではないかと思います。各支援団体等には、障がいのある方が望む情報を手に入れるための仲介的な支援（どこを見ればその情報があるのか等）をいただくとよいのではと考えている。

- R5前期の宮崎市公民館講座に「卓球バレー」の講座を開設することになった。3月末にはパンフレットの配布が開始され、この協議会のメンバーにも周知を行う予定である。

◆ 南部地区 ◆

【出席者】

南九州大学人間発達学部子ども教育学科	川越 浩司
県立小林こすもす支援学校	福崎 正浩
都城市障害者自立支援協議会	川口 貴博
特定非営利活動法人 宮崎県精神福祉連合会	乗畑 貴志
霧島おむすび自然学校	壹岐 博彦
子どもと家族・関係者の集まり ポン太クラブ	外山 明美
都城市教育委員会生涯学習課	桑田 玲奈
小林市教育委員会社会教育課	高妻 司

【協議の記録】

- 今後、参加したい講座について
 - ・ パソコン教室、サイクリング教室、料理教室
 - ・ フットパスや、ネイチャーゲーム等の自然に触れるもの(自然体験)
 - ・ 楽しみながら継続できる講座
- ※ 手話を習いたい小学生がいるが、実施している講座は平日実施のため参加は困難（手話サークル等の関係者やろう者の方を通じて相談してみるというものもあるか。）
- 障がいのある方が参加しやすくするために必要なことについて
 - ・ ICT 機器（PC 等）の活用
 - ・ 交通手段（送迎サービス等）の確保
 - ・ ボランティアの確保
 - ・ 福祉部局との連携

都城市・・・ 都城市は、今年度、霧島おむすび自然学校やポン太クラブさんと協働した取組を実施することができた。次年度は、今年度実施したことをもとに、工夫しながら実施していきたい。

小林市・・・ 小林市は、昨年度実施した講座を今年度も計画している。ただ、参加者を募集しているが、まだ、障がいのある方の参加はない。引き続き、広く周知していきたい。施設への案内、協力が大切だと考える。
- 障がいの有無に関わらず、多くの方に参加してもらうため必要なことについて
 - ・ 事業所などに直接訪問して案内するとよいのではないか。
 - ・ 行政側の工夫が必要 →
 - 小林市は、市の広報に掲載し、回覧板での周知に加え、世帯配布を行った。
 - 福祉課には案内チラシの送付をお願いした。今後も、関係者同士で共通認識をもてるような関わり合いが必要であると考えます。
- 障がいのある方も参加できる生涯学習講座を実施する上で、委員としてできることについて

【学校職員】

 - ・ 現在、大学生とのスポーツ交流の支援を行っている（土、日、月2回）
 - ・ 卒業した生徒への情報発信について、広報活動におけるネットワークや学校のホームページの活用等、今回関わった委員を通じて学校内での情報伝達方法の構築をお願いしたい。

【その他】

 - ・ 志和池での事業では地区社会福祉協議会を通じてボランティアの確保につながった。
 - ・ 委員一人一人が今回できたつながりを今回のみに終わらせることなく、次の活動に生かしていくことが大切である。

◆ 北部地区 ◆

【出席者】

九州保健福祉大学臨床心理学部臨床心理学科	戸高 翼
日向市地域福祉コーディネーター連絡会	成合 進也
teとteの会	甲斐 麻央
一般社団法人宮崎県作業療法士会	内勢 美絵子
宮崎LD・発達障がい親の会 フレンド	猪股 重子
旭化成アビリティ延岡営業所 オフィスサービス課	木村 進二
延岡市教育委員会社会教育課	飯野 小巻
延岡市健康福祉部障がい福祉課	黒木 奈都子
日向市教育委員会生涯学習課	治田 健吾

【協議の記録】

1 北部の実践について

○ 主催者より

支援学校への投げかけだけでは参加が集まらなかった。関係性も大切だと気付いた。当事者が1名参加してくれたことで、支援者は色々な学びがあった。当事者と支援者がLINEで繋がったり、次は釣りをしたいという要望を伝えてくれたりするなど、次につながる動きもあった。

○ 参加した委員より

- ・ 当事者と支援者の交流も随所で見られ、防災食を学ぶこともでき、参加して良かった。
- ・ コンファレンスでの中部地区の発表のように、「普通」「当たり前」を感じることができた。

2 今後の講座やイベントの実施に向けて

○ 所属団体の会員に北部の実践を案内したが、参加希望がいなかったのが、ニーズを調査した。年齢が様々で、個々のニーズも異なっていた。障がい種によっては、体を動かすスポーツや運動がイメージしやすいという感想や、部分的な参加などのニーズが分かった。わかばぎ自然の家などで団体のイベントを実施する場合は、1人の当事者（発達障がい等）に2名以上の支援員を、必要な場合には3～4名がつかうことがある。そうすると総勢200名のイベントになる。

○ わかばぎ少年自然の家で実施することを提案したい。職員のサポートも期待でき、サンパークよりも安全面が確保しやすい。支援する職員にとっても、貴重な経験になると思う。

○ 障がい種によるかもしれないが、公民館では活動内容が限定されるが、今回のような体験的な活動だと取り組みやすいと思う。体験的な活動は、助け合いながら活動できるという利点がある。

○ 公民館講座だと、場所や空間として内容などが限定される。音楽鑑賞やダンスだと、身体障がいのある人でも参加しやすい。参加型の音楽会など、講座の場合、創作活動があると意欲的に取り組めそう。

○ 事例の紹介として、延岡市社会教育課と九州保健福祉大学が「のべおか子どもセンター」の取組を共同で行っている。案内を特別支援学校や児童通園施設にも出しているが、これまで障がいのある方の申込みはない。そのような中、今回、家庭教師で普段からつながりのある手話通訳士の誘いがあった、聴覚障がいのある児童の参加があった。その手話通訳士が情報保障の支援者となったことにより、障がいの無い子どもたちとも一緒に活動することができた。

また、延岡市の「延岡こども未来創造機構」と東京学芸大学が共同して、発達障がいの子ども参加することができる「ゆるスポーツ」というイベントを今後計画している。

○ 今回の実践で課題が分かった。来年度は、どこの市町村が中心となって実施するのか決めておくべきではないか。

○ 日向市の公民館講座の案内に、「誰でも参加できます」と記載している。「生涯の有無に関わらず」の文言を入れるために、社会教育指導員の方々とどのように対応するか協議している。

3 質問用紙の内容について

○ このプリントの質問項目自体が難しいと感じた。質問の対象が絞られていないので、対象年齢や、対象とする障がい種などが考える範囲が広すぎると感じた。年齢を例に考えると、10代と80代では知りたい、学びたいことは違う。ある程度、年齢などは絞らないと難しいと感じる。

○ このプリントの質問は、支援する側ではなく、当事者に尋ねてもらいたい質問だと思う。

Memo